

主 題：神に愚痴をこぼさなかった人 — ヨブ

聖書箇所：ヨブ記

私たちはどうして苦しむのか、まじめにやっているのに、一生懸命主に従っているのにどうして困難ばかりやって来るのか、どうして信仰者が苦しみ、そうでない人たちが楽しく過ごしているのか、そのような疑問を私たちは少なからずもったことがあるのではないかと思います。今日、私たちが見ようとしているこのヨブ記のヨブは私たちに苦難の意義について教えてくれます。私たちはどのように苦難に立ち向かうべきなのか、どうすれば苦難に勝利することができるのか、彼はそのすべてを私たちに教えてくれるのです。皆さんもよくご存じのヨブ記です。42章すべてをこの短い時間に見て行くので大きな無理があるのですが、大変な苦しみを経験したヨブがどのように問題に勝利して行ったのか、信仰の勇者たち見るとき、私たちは時代が違っても大きな励ましを得ます。彼らに為さった神のみわざを見るとき、また、神の知恵を見るときに、私たちの信仰は励まされます。そういう意味で、今日私たちはこのヨブという人物について、信仰の勇者であるこの人物についてごいっしょに見て行きましょう。

◎神とサタンの会話

1－2章に記されています。サタンが神の前に立ち、そして、ヨブのことを訴え出るので。もちろん、黙示録の中を見るとサタンは日夜主の前でクリスチャンのことを訴えているというのですから、これがサタンの為すわざであり、これがサタンが望んでいることです。ヨブに関してサタンは二つのことを神の前に求めるのです。というのは、ヨブは1：1を見ると「**ウツの地にヨブという名の人がいた。この人は潔白で正しく、神を恐れ、悪から遠ざかっていた。**」とあり、つまり、ヨブは神の前に正しく歩み続けていた人でした。決してこれは罪がなかったというわけではありません。神を愛して神を恐れて神に従っていたのです。そのことは神もご存じで、サタンも知っていました。サタンは神に言います。それはそうでしょう、あなたがあれほどの祝福を与えていたらだれだって、ヨブでなくても、神を愛してあなたに従いますよ、だから、その持ち物を奪ってみてください、そうしたら彼がどんな態度であなたに接するかが分かります、きっと彼はあなたのことをのろいますよと…。サタンが思ったことは、ヨブがこのような神を愛して神に従おうとしている原因は、神がヨブにすばらしい物質的な祝福をもたらしていたからだということです。これを見てもサタンが全能でないこと全知でないことは明らかです。サタンは分かっているのです。そして、神はそのことを許可なさるのです。ヨブには七人の息子と三人の娘がいました。「**彼は羊七千頭、らくだ三千頭、牛五百くびき、雌ろば五百頭、それに非常に多くのしもべを持っていた。それでこの人は東の人々の中で一番の富豪であった。**」(1：3)と、非常に裕福だったのです。ところが、シェバ人たちによって家畜が奪われて若い者たちが殺されたという知らせを受けるのです。次に、また使いが飛んで来て、神の火によって羊と若い者たちが焼き尽くされたと言います。それだけではありません。また次の人がやって来て、「**カルデヤ人が三組になって、らくだを襲い、これを奪い、若い者たちを剣の刃で打ち殺しました。私ひとりだけがのがれて、お知らせするのです。**」(1：17)と告げます。また、別の人がやって来て、荒野からの大風によって七人のご息子と三人の娘さんたちが亡くなりましたと知らせます。これだけの悲惨な出来事を一瞬のうちに経験してしまったら、どうでしょう？ヨブはどのように感じたでしょう？私たちもその場に自分を置くことができます。このような目に遭遇したらどうでしょう？なぜでしょう？なぜですか神さま？と思うことは人間的にみれば当然でしょう。私はあなたに従ってきたしあなたに喜ばれることをしてきたし、あなたを愛してやって来たのに、なぜこんな不幸が訪れるのですかと。ところが、1：20から見ると「**このとき、ヨブは立ち上がり、その上着を引き裂き、頭をそり、地にひれ伏して礼拝し、**」：21 **そして言った。「私は裸で母の胎から出て来た。また、裸で私はかきこに帰ろう。主は与え、主は取られる。主の御名はほむべきかな。」**：22 **ヨブはこのようになっても罪を犯さず、神に愚痴をこぼさなかった。**」と、神に文句を言わなかったと言います。

そこで、サタンはまたも主の前にやって来て、彼がまだあなたにこのような態度を取り続けるのは、彼が健康だからですよ、だから、その健康を奪ってみてください、そうすれば間違いなく彼はあなたをのろいますよ、と言います。そのことが2：1から出て来ます。神はそのことを許可されたとき、ヨブの全身は悪性の腫物でおおわれてしまうのです。非常な痒み、痛さに苦しみます。2：13に「**彼の痛みがあまりにもひどいのを見たからである。**」とあります。持っている物全部がなくなっただけでなく、自分自身の健康まで害してしまったのです。ヨブの三人の友人たちが出て来ますが、彼らはヨブを見てもヨブだとは分からなかったと言います。2：12「**彼らは遠くから目を上げて彼を見たが、それがヨブであることが見分けられないほどだった。彼らは声をあげて泣き、おのおの、自分の上着を引き裂き、ちりを天に向かって投げ、自分の頭の上にまき散らした。**」。そして、1：13「**こうして、彼らは彼とともに七日七夜、地にすわ**

っていたが、だれも一言も彼に話しかけなかった。彼の痛みがあまりにもひどいのを見たからである。」と余りのショックだった、余りにも痛ましかった、余りにも悲しかった、それで一言も口にすることができなかったのです。ですから、ヨブは健康も富も家族も地位も失ってしまうのです。サタンが望んだことは、このようにすべての不幸をもたらすことによって、ヨブが楽しんでいた物質的な祝福、健康を奪うことによって、ヨブが神をのろうに違いないということです。ヨブの妻は2：9「すると彼の妻が彼に言った。

「それでもなお、あなたは自分の誠実を堅く保つのですか。神をのろって死になさい。」と言っています。彼女の心の痛みがここに出て来ます。これだけ不幸が続いたのです。苦しみ悲しみが続いたのです。いつまで、神に対してあなたは忠実忠誠を尽くして行くのか、いつまであなたは神を礼拝し続けるのか、もういい加減にその神を捨てたらどうですか、こんなにひどいことを神は私たちにもたらしただから、「神をのろって死になさい。」と言います。私たちは彼女を責めることができるのでしょうか？このような思いは私たちも同じではありませんか？私たちが覚えるべきことは、大変な状況の中でヨブがどのように歩んだのかです。私たちの信仰の先輩である彼がこのような大変な問題の中でどのように生きたのかということです。2：10を見るとヨブは妻にこのように言っています。「しかし、彼は彼女に言った。「あなたは愚かな女が言うようなことを言っている。私たちは幸いを神から受けるのだから、わざわざいをも受けなければならないではないか。」ヨブはこのようになって、罪を犯すようなことを口にしなかった。」と。

ですから、このような出来事があった後、サタンはヨブが必ず神をのろうと思っていました。ところがヨブの口から出てきたことばは、先ほども見た通り、1：21「主は与え、主は取られる。主の御名はほむべきかな。」です。2：10では「私たちは幸いを神から受けるのだから、わざわざいをも受けなければならないではないか。」です。これらの箇所は私たちに大切なことを教えています。それは、ヨブ自身がいったいどこからこのような苦しみが自分に訪れたのかが分かっているということです。彼の発言は彼がこれらの出来事をどのように見ていたのかを知ることができます。このようなことを自分にもたらししたのは神だと言います。神がこれらのことすべての背後におられると。このような悲惨な出来事ではあるけれど、これが神がもたらしただけのものであるなら、そこには神の完全な計画があるに違いないと、その確信をもっていたのです。先ほどサタンは全知でもないし全能でもないと言いましたが、サタンはこれから何が起ころのか分かっています。ヨブがどのようになっていくのか分かっていないのです。しかも、彼は神のように全能でないのは自分の思い通りにすべてのことができません。神の許可のもとにしかできないのです。全能であり全知である神は、何が最善かを知っておられ、敢えて、このようなことを許可されたのです。そこにはすばらしい神のご計画があったのです。確かに、ヨブはここを見たとき、このような状況にあってもそのすべての災い、不幸と人間が呼ぶものでも、その背後に必ず神がいる、神の手を離れて為されていることはないと言信しているのです。そのことはぜひ覚えておいてください。

◎三人の友との会話

このような信仰者だったヨブ、このように様々な問題に対応したヨブ、彼のところに友人たちがやって来ます。ほとんどの箇所、32章まではこの三人の友がヨブと会話しているところです。32章からはもう一人の人物が出てきますが、順に見て行きましょう。

1. エリファズ

最初の友だちはデマン人エリファズです。最初に彼の名前が出て来るのはもしかすると彼が一番年上だったからかもしれません。彼がヨブに対して話をします。4：7に「さあ思い出せ。だれか罪がないのに滅びた者があるか。…」とあります。この人はヨブを責めるのです。あなたが罪を犯したからあなたはこんな苦しみにあっているのだと言います。その根拠がどこにあるのかというと、彼の様々経験です。ですから、7節には続いて「どこに正しい人で絶たれた者があるか。」と言って、過去を振り返ってみなさい、そのようなケースがありましたか？と言って、今あなたが罪を犯しているからこのような苦しみに出会っているのだとエリファズは言います。彼の過去の経験に基いて現在のヨブを責めるのです

2. ビルダテ

次に登場する人物は8章と18章と25章に出てくるシュアハ人ビルダテです。8：8を見ると「さあ、先代の人に尋ねよ。その先祖たちの探求したことを確かめよ。」とあり、この人物もエリファズと同じようにヨブを責めます。あなたがこんな苦しみにあっているのはあなたが罪を犯しているからだ。彼がヨブを攻撃するその根拠は、同じように過去の出来事です。8：6を見ると「もし、あなたが純粋で正しいなら、まことに神は今すぐあなたのために起き上がり、あなたの義の住まいを回復される。」とあります。彼も同じように、今あなたがこんなに大変なことを経験しているというのは、あなたが純粋で正しくないからだと言っているのです。罪が原因だと彼も言うのです。

3. ツォファル

三人目の人物はナアマ人ツォファルです。11章と20章に出て来ます。11：6に「神は知恵の奥義をあなたに告げ、すぐれた知性を倍にしてくださるものを。知れ。神はあなたのために、あなたの罪を忘れてくだ

さることを。」とあり、彼もこのようにしてヨブを責めるのです。神はあなたの罪を忘れてくれるのにどうしてあなたは自分の罪を告白しないのか、神は赦してくれるのになぜあなたはしないのか、しないからあなたは今そのような苦しみ遭遇しているのだと言うのです。20：5で「**悪者の喜びは短く、神を敬わない者の楽しみはつかのまだ。**」と、このようにヨブのことを言うのです。22節には「**満ち足りているときに、彼は貧乏になって苦しみ、苦しむ者の手がことごとく彼に押し寄せる。**」と、ヨブが苦しんでいる原因がどこにあるのかということを行っています。28節「**彼の家の作物はさらわれ、御怒りの日に消えうせる。**」、29節「**これが悪者の、神からの分け前、神によって定められた彼の相続財産である。**」と非常にひどいことを言います。結局、彼も最初から、ヨブよ、あなたは間違っている、あなたがこんなに大変な目に会っているのは、あなたのうちに罪があるからだと言い、そのことをどんどん展開して行き、まさに彼が罪を犯したからだという強い確信に基いて話すのです。

エリファズはヨブが罪を犯さなかったら問題は起こらなかっただろうと、そのように仮定をもって話しています。ビルダテは問題が起こったのだからヨブは罪を犯しているにちがいないと憶測をもって話をするのです。ツォファルはヨブは罪深い人間であり苦しむのは当然であると憶測で話すのです。これがヨブのところにやって来た三人の友人たちだったのです。共通しているのは、今も見たように、彼らは不幸は必ず罪が直接の原因となって起こるのだと信じていたことです。それが彼らの人生観でした。それに対してヨブはどのように答えて行くのでしょうか？

◎ヨブの対応

私たちが1－2章で見たのは、すべての出来事の背後には完璧な神の計画があると信頼していたヨブです。ところが、この三人の友人たちと話を始めるにつれて、ヨブは一生懸命自分自身の正しさを主張するのです。いいえ、私は罪を犯していないと言うのです。この三人の友人との会話を通して、悲しいことに、ヨブは罪を犯して行ってしまうのです。13：24「**なぜ、あなたは御顔を隠し、私をあなたの敵とみなされるのですか。**」とこのように言います。なぜ私を敵と見るのですか神さま！と、ヨブはここで神は私の声を聞いてくださらない、神は私を敵として扱っておられるのだと、このように告白するのです。間違いが見えます。先に、すべてのことの背後には神の完璧な計画があるという、すばらしい信仰告白をしていたヨブが、この三人とのやりとりを通して神は私の声を聞いてくれない、神は私を敵とみなされる、神は私をさばいておられると言うようになってしまいます。そのことは6章にも出ています。6：4「**全能者の矢が私に刺さり、私のたましいがその毒を飲み、神の脅かしが私に備えられている。**」と。1－2章で見たヨブとどうも違います。自分自身の苦しみがあたかも神に責任があるかのように話し始めるのです。9：17－18にも「**神はあらしをもって私を打ち砕き、理由もないのに、私の傷を増し加え、：18私に息もつかせず、私を苦しみで満たしておられる。**」とある通りです。

◎4番目の友、エリフ

エリフ、彼は恐らく三人の友人たちといっしょにいたのでしょう。途中からやってきたとは聖書に記されていません。多分、彼は一番年が若かったので、先輩たちが話すことをじっと聞いていたようです。ですから、32章まで彼のことは全然出てきません。4度に渡って彼はヨブと話をするのですが、その中でエリフはヨブ自身が発言したことを繰り返すのです。（1）33：9には「**私はきよく、そむきの罪を犯さなかった。私は純潔で、よこしまなことがない。**」と、このようにあなたは言いましたよとエリフは言うのです。10－11節「**それなのに、神は私を攻める口実を見つけ、私を敵のようにみなされる。：11 神は私の足にかせをはめ、私の歩みをことごとく見張る。**」と、これがエリフとヨブの話し合いの中でヨブ自身が言ったことです。（2）34：5－6「**ヨブはかつてこう言った。「私は正しい。神が私の正義を取り去った。：6 私は自分の正義に反して、まやかしを言えようか。私はそむきの罪を犯していないが、私の矢傷は直らない。」、この「矢傷」は神が放った矢です。34：9を見ても「彼は言った。「神と親しんでも、それは人の役に立たない。」と、つまり、ここでヨブが告白したことは、神を喜ばせても自分にとって何の得もないと言っているのです。（3）エリフとヨブの3度目の会話、35：3「**あなたは言っている。「何があなたの役に立つのでしょうか。私が罪を犯さないと、どんな利益がありましょうか。」と。**」、罪を犯さない自分に何の得があるでしょうと言います。（4）4度目は、36：23「**だれが、神にその道を指図したのか。だれが、「あなたは不正をした。」と言ったのか。**」、この「あなた」は神を指しています。つまり、「神さま、あなたは不正をした」とだれが言ったのかとエリフは言うのです。ヨブです。ヨブが「神が不正をした」と、このようなことをヨブが発言したとエリフはヨブに教えるのです。**

いったいこのヨブに何が起こってしまったのでしょうか？32章を見てください。1－2節には「**この三人の者はヨブに答えるのをやめた。それはヨブが自分は正しいと思っていたからである。：2 すると、ラム族のブズ人、バラクエルの子エリフが怒りを燃やした。彼がヨブに向かって怒りを燃やしたのは、ヨブが神よりもむしろ自分自身を義としたからである。**」とあります。非常に悲しいことをここに見ます。まず、三人の友人がヨブと話したとき、彼らはヨブを責めました。あなたが罪を犯したからこんなわざわいが訪れたのだと。

ヨブは一生懸命自己弁護をしました。私は悪くない、私は何もしていない、私は潔白だ、私は罪がないと、このような会話を通して、自分は正しい、この正しい自分がこんな苦しみを経験しているのは神が不正を行なったから、神が間違っているのだと、このようなことを発言するようになってしまったのです。それでエリフはヨブの間違いを的確に指摘して行くのです。33:12-13節を見てください。

「聞け。私はあなたに答える。このことであなたは正しくない。神は人よりも偉大だからである。:13 なぜ、あなたは神と言い争うのか。自分のことばに神がいちいち答えてくださらないといって。」、ヨブはなぜこのように苦しむのですかと、友人との会話を通してその思いがますます強くなって来たのでしょうか？それに対する神からの答えがない、そうすると、彼は神を責め始めるのです。神を訴え始めるのです。そして、この3章から37章を見るとき、なぜこんな苦しみや罪のない者に及ぶことを神は赦されるのかと言って、神を訴えるのです。今、私たちはどうしてヨブがこのようなになってしまったのか、そのことを見て来たのですが、私たち自身をみると、やはり同じようなことをしてしまうのです。私たちはヨブが経験したようなこんな苦しみや悲しみを経験したことは恐らくないでしょう。このヨブの信仰はすばらしかった、本当に神の前に正しかった、ところが、この友人たちによって間違った考えをもってしまったのです。ですから、後に神はこの三人の友人たちを責めます。本来なら、この友人たちは正しく導くべきでした。それをしたのはエリフだけでした。

エリフは苦難の目的を見えています。苦難には必ず神の目的があると。そこには、もしかすると矯正があるかもしれないし訓練という目的があるかもしれません。34:10を見てください。**「だから、あなたがた分別のある人々よ。私に聞け。神が悪を行なうなど、全能者が不正をするなど、絶対にそういうことはない。」**とエリフは神がどういうお方かを言っています。神は絶対に不正をなさらない方、神は絶対に悪を行なうことがない方、だから、神なのだ…では、私たちが経験する様々な苦難は何なのか、そこには神の目的がある、あなたの益のためにと言います。34:33には**「あなたが反対するからといって、神はあなたの願うとおりに報復なさるだろうか。私ではなく、あなたが選ぶがよい。あなたの知っていることを言うがよい。」**と言っています。神は主権者であって最善が何かをご存じのお方であり、この方は正しい目的をもってすべてのことをしておられる、あなたが反対するからといって神はあなたの願うとおりになさるでしょうか？そんなお方ではない、あなたが何を言おうと何をしようと、神はこれまでと同じようにこれからも正しいことを為して行かれると言います。このようなエリフのことばはヨブの心の中に残って行くのです。ヨブはこのようなことばを聞きながら我に返って行くというか、あるべき姿へと戻されて行くのです。35:9-11**「人々は、多くのしいたげのために泣き叫び、力ある者の腕のために助けを呼び求める。:10 しかし、だれも問わない。「私の造り主である神はどこにおられるか。夜には、ほめ歌を与え、:11 地の獣よりも、むしろ、私たちに教え、空の鳥よりも、むしろ、私たちに知恵を授けてくださる方は。」**と。」、エリフは大切なことをヨブに言うのです。私たちはなぜ？と思うような様々な問題に遭遇するときはどうして喜びがなくなってしまうのか、エリフはここでそのことを言っているのです。皆さん、もし、あなたに喜びがないなら原因はここにあります。エリフは**「私の造り主である神はどこにおられるか。」**と言いました。つまり、だれもそのような問題を抱えているときに神のもとに出て来ないと言っているのです。確かに、後に神が彼らに話される時最初に言われたことは、創造主がいったいどのようなわざを為したのかを覚えなさいということです。そのことが後半に出てきます。神がどんなに知恵のある方であり、どんなに力がある方かを忘れてはならないと言っているのです。ということは、私たちもいろいろな辛いこと、悲しいこと、どう見てもこれは不幸だと思えることを経験するときに、私たちが考えなければいけないこと、それは、私のうちに罪がないかどうかです。確かに、様々な罪が私たちから喜びを奪って行ってしまいます。そして、もし私たちが神の前に正しく歩んでいるのにどうして？と思うようなことが起こって来たときは、創造主なる神のところに行けばよいのです。そして、10節に**「夜には、ほめ歌を与え、」**とあります。神が与えてくれるのです。つまり、私たちの喜びは神から来るのです。私たちに「ほめ歌」、つまり、喜びを与えてくださり、私たちに知恵を与えてくださる、そのような神だとエリフは言うのです。エリフが言っていることは「ヨブ、あなたが苦しんでいるのはあなたが罪が犯したからではない、あなたの問題はこれら友人たちとの会話を通して、今のあなたの神に対する態度が間違っている、あなたは今神の前に高ぶっている、神よりも自分が正しいとしている、そこに問題があるのだ」と指摘するのです。神の正しさに反論してまで自分を主張しようとする、この独善の罪です。自分は正しいとする罪です。35:12に**「そこでは、彼らが泣き叫んでも答えはない。悪人がおごり高ぶっているからだ。」**とあります。36:9にも**「そのとき、神は、彼らのしたことを彼らに告げ、彼らがおごり高ぶったそむきの罪を告げる。」**とあり、神は私たちのそのような神に対するおごり高ぶり、もちろん、人に対してもそうですが、それを憎んでおられます。確かにヨブは正しかったのです、彼のこのような苦しみは彼の罪が原因ではなかった、神のすばらしい計画があったのです。彼がますます主にあって成長するために、大切なことを学ぶために。ところが、この三人との会話によってヨブは自分の潔白さを証明しようとするゆえに、

だんだん自らの正しさを誇り高ぶる者になってしまったのです。これが彼の問題でした。だから、エリフはそれが間違っていると指摘したのです。

◎神の完全な尊い計画

神が正しく全能ならどうして正しい者が苦しむのか、ヨブはその答えを求めるのです。しかし、そこには神ならではの完全な目的があったのです。ヨブはそれを友人たちとの会話を通してそのことを考え、神に信頼を置くことができなくなっていくのです。エリフは神の尊い計画がそこにあるということをヨブに教えるのです。このように言います。私たちがそのすべての出来事の神の計画を知らなくても神は崇めるに値するお方だと。私たちが「神さま、あなたの為さっていることが理解できないからあなたを認めない、私が納得しなければ…」というのはおごりです。神は正しいことを為さっているのです。私が理解できなくてもそれは私の問題であって神の問題ではありません。神は正しいことしか行なえない、神の完全な知恵によって最善のことをしておられるのです。その神がどういうお方なのかを覚えるなら、私たちの神に対する態度は先にいったようなおごりを捨てるはずで、私にその計画が分からなくてもあなたは神だからあなたを信頼するその信仰を与えてください、あなたを信頼しあなたを信じ続けるそんな信仰者に私をしてくださいと言うはずで、「見よ。神は強い。だが、だれをもさげすまない。その理解の力は強い。」と36:5でエリフは言います。神はすべてのことをご存じであり絶対に正しいお方だと。

今日、私たちはこの時間にヨブの話を見て来ました。後になって、神はこのヨブにすばらしい祝福を与えられます。というのは、ヨブが神の前に自分の罪を告白したからです。そして、神はヨブを再び豊かに祝われることが42章に記されています。皆さんに今日ぜひ覚えていただきたいこと、サタンが何を望んでいたか思い出してください。サタンはヨブに何を求めましたか？何を期待したでしょう？サタンはヨブが神を信頼し神を愛して神に忠実に従って行くことは望まなかった、彼はヨブが神をのろう者になることを望んだのです。神を疑う者になることでした。神さま、あなたはおかしいと言うだけでなく、そう信じる者になることでした。そのサタンの働きは終わっていません。今も継続しているのです。ですから、ペテロの手紙第一5:8で「**身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたけるししのように、食い尽くすべきものを捜し求めながら、歩き回っています。**」とされています。サタンは今も同じようなことをしているのです。この「**食い尽く**」というのは私たちクリスチャンの信仰の証を台無しにすることであると、かつて私たちはペテロの手紙の学びでそのように学びました。私たちクリスチャンがいつも神を喜び、神のすばらしさを証する、そういうクリスチャンであってほしくないと思っているのはサタンです。救われて神のものになったクリスチャンがいつも不満を言い、いつも神を疑い、神に信頼しないことを望んでいるのです。だから、ペテロも教えたのです。気をつけなさい、サタンは「**ほえたけるししのように、食い尽くすべきものを捜し求めながら、歩き回っています。**」からと言うのです。この「**食い尽くすべきもの**」とある「**もの**」がひらがなになっていますが、これは人間のこと、クリスチャンのことです。サタンはこうしてあなたの心の中にも働くのです。だから、ペテロは「**身を慎み、目をさましていなさい。**」と教えるのです。どんな状況にあっても常に正しい判断力をもって正しいことを選択して行きなさい、あなたを惑わすものがいっぱい出てくるだろう、この世的な考え、価値感、生き方などが出てきてあなたを惑わすだろう、けれど、あなたはどんなときにも神に喜ばれることを判断し選択しなさいと言うのです。1ペテロ5:9には「**堅く信仰に立って、この悪魔に立ち向かいなさい。ご承知のように、世にあるあなたがたの兄弟である人々は同じ苦しみを通して来たのです。**」とあります。ペテロの頭の中にヨブのことがあったのかどうかは分かりません。しかし、これまでの先輩たちも同じような戦いをして来た、サタンはその働きを止めないのです。そして、今もあなたのうちに働くのです。神を疑って行くように、神をのろうようにと。いろいろな問題をいろいろな苦しみ悲しみをあなたは経験しておられるかもしれません。もしそうなら聞いてください、選択があります。あなたは神を疑い、神に愚痴を言い、神に不満を言い、神を信頼しないで間違った歩みをするすることができます。その報いはあなた自身に喜びが全く出て来ない、感謝が出て来ない、みじめな生活だけです。しかし、あなたが私の神はどんな神なのか、そのことをしっかり覚えて、このヨブ記の38章から記されているように、この地球を創造し、この空を創造し、雲や星を創造し、動物を創造した偉大な神、その方を覚えて、神さま、私には分からないけれど、私はその説明をあなたに求めません、私はあなたを信頼します、あなたを信じますと、そのようにあなたが歩んで行かれるなら、あなたは喜びを失うことはありません。ヨブはそうして歩んだのです。ヨブは大切なことを学びました。神は信頼に値するお方だ、神のなさることは常に最善だ、私はこの方を信頼してこの方を信じて従って行こうと。だから、神は彼を喜ばれたのです。だから、神は彼を用いられたのです。そして、神はあなたを同じように用いてくださる、神を疑うことは止めなければいけない、神に愚痴をいうことは止めなければいけない、神はあなたを愛してあなたのために常に最善を為してくださっているからです。そのような神です。信頼することです。信じることです。そして、従うことです。